

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：37503

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23710056

研究課題名(和文) 干潟再生事業におけるリスク・ベネフィット認識と環境コミュニケーション

研究課題名(英文) Social Perception of Risks and Benefits of Tidal Flat Restoration Projects

研究代表者

山下 博美 (YAMASHITA, Hiromi)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：90588881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通じ、一見、雑多な印象を受ける干潟再生に関する多様な意見も、その人の事業への賛成・反対に関わらず、以下の中心的な言説に分類可能なことが分かった。それらは「再生行為の意義」、「喪失の経験と不安」、「公正さの担保」、「未来への展望」、「対立の打破(和解の言説)」である。これら5つの言説要素は、今後の干潟再生における合意形成の場で注意深く拾い上げ、互いに理解を深めるべき項目となり得る。

研究成果の概要(英文)：Social perceptions towards various tidal flat restoration projects often appear to be disorganised and random. However, this piece of research has identified five possible major discourse classification groups: the meaning of restoration activities; experience and worries of loss; ideas of the future; ensuring fairness; and overcoming conflict (discourse of reconciliation). These discourse elements could become reference points for future stakeholders to examine and discuss in detail when building consensus for possible tidal flat restoration projects.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：環境学・環境影響評価/環境政策

キーワード：干潟再生 環境リスク・コミュニケーション 社会認識 合意形成 環境影響評価 環境政策

## 1. 研究開始当初の背景

沿岸湿地の一つである干潟は、熱帯雨林に匹敵する生物多様性及び生物生産性を保つ場所であり、食糧や地下水確保のみでなく、水質浄化、洪水及び津波からの被害を軽減するなど様々な生態系サービスを提供している。近年、干潟の重要性についての理解の高まりや温暖化対策の一環、又、魚貝類の資源確保等のために、国内でも英虞湾を始めとし、干潟や沿岸湿地の再生事業や事業案が出されるようになってきた。

このような中、国内外において干潟再生事業に関する評価基準や、意思決定の指標の整理が求められているが、現在は、生物の個体数や潮の流れの変化など、自然科学的・定量的なデータに基づく評価がほとんどである。

干潟を含む沿岸湿地再生には、長期的な維持管理のための投資が必要であり、望まれる「再生」の姿や、再生事業の意義づけが社会的に共有されていること、またベネフィットのみでなく干潟を再生することにより起こり得るリスク（水辺が家に近くなる等）や心理的な不安等（防波堤など現在あるものを壊す、又は変化への抵抗等）についても十分に理解・検討される必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は、干潟を含む沿岸湿地の再生案や再生事業に注目し、「再生」に関して異なるステークホルダーが、どのようにそのベネフィットとリスクを理由づけ、コミュニケーションを行っているのかについて、インタビューや収集した資料データの批判的ディスコース分析を行い、将来の干潟再生事業のよりよい意思決定と環境コミュニケーションに貢献することを目的とした。

## 3. 研究の方法

ケーススタディーは、日本（諫早湾・英虞湾）・イギリス・オランダ・マレーシアの干潟再生事業及び事業案の5つについて行った。データ収集方法は、1) 様々なステークホルダーが受け取っている、またはステークホルダーが発信している再生事業についての情報の収集と内容分析(紙媒体、音声、動画等、様々なメディア)及び2) 詳細なインタビュー(In-depth interview、個人・グループ)を中核に据えた。

## 4. 研究成果

本研究を通じ、一見、雑多な印象を受ける干潟再生に関する多様な意見も、その人の事業への賛成・反対に関わらず、以下の中心的な言説に分類可能なことが分かった。それらは「再生行為の意義」、「喪失の経験と不安」（現存状況の喪失・過去の喪失からの脱却）、「未来への展望」（肯定的・否定的）、「公正さの担保」（公正さの喪失・公正さの獲得・改め）、「対立の打破」（和解の言説）である。これら5つの言説要素は、今後の干潟再生における合意形成の場で注意深く拾い上げ、互いに理解を深めるべき項目となり得る。

又、「再生行為の意義」の認識については一つの意見の中に重層性が見られ、それらには「その場所の価値」に関する認識、「再生行為自体」への認識、「長期計画の立案」への認識、「変化の享受」への認識等の要素が影響していることが分かった。

現在、査読中の論文も含め、今後も本研究のデータを広く分かち合っていくと同時に、より発展・深化させた形の研究活動を展開していくことにより、将来の干潟再生・自然再生事業の意思決定と環境コミュニケーション

ンに貢献していきたい。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

池側隆之・青山太郎・山下博美(2014)

「環境コミュニケーション創出のための  
エスノグラフィック・リサーチ - 干潟  
と周辺環境のフィールドワークから」

『メディアと社会』Vol.6, pp.39-53. (査  
読有)

URL: <http://hdl.handle.net/2237/19815>

萩原和・永井裕人・千葉啓広・富田啓介・  
富吉満之・加藤博和・清水裕之・河村則  
行・平野恭弘・田代喬・山下博美(2014)

「臨床環境学教育プログラムにおいて  
大学院生の異分野協働に見られる特徴  
と課題」『環境共生』Vol.24, pp.71-78.

(査読有) URL: <http://www.jahes.jp/>

Yamashita, H. (in press) Problems of  
the 'Fact'-Focused Approach in  
Environmental Communication:  
Examples of environmental risk  
information on tidal flat developments  
in Japan. Environmental Education  
Research. (査読有) URL:

[http://www.tandfonline.com/loi/ceer20  
#.U6JVsb1Zqpo](http://www.tandfonline.com/loi/ceer20#.U6JVsb1Zqpo)

[学会発表](計8件)

Yamashita, H. (2014) Social Perceptions  
and Environmental Communication  
on the 'Benefits' and 'Risks' of Tidal  
Flat Restorations: Case studies from  
Japan, UK, Netherlands and Malaysia,  
XVIII ISA World Congress of Sociology,  
Pacifico Yokohama (15 July 2014)

Prietto, C. and Yamashita, H. (2013)  
Communication and Capacity  
Building Needs for Implementing the  
Ramsar Convention, 2013 Asia  
Regional Workshop on Scientific and  
Technical Support for Implementation  
of the Ramsar Convention, Changwon,  
Republic of Korea (7 October 2013)

Yamashita, H. (2012) 'Social  
Perceptions of Wetlands: Implications  
for Environmental Decision Making',  
German-Japan Bio Web City/Region  
Symposium: New Trend of Landscape  
Design: Seamless Connection of  
Landscape Planning and Design from  
Regional to Site Scales - The Cultural  
Context, Nagoya University (5  
November 2012)

山下博美・池側隆之(2012)「干潟の映  
像広告制作から見た環境コミュニケー  
ションの考察」, 2012年度日本海洋学  
会春季大会、筑波大学(2012年3月27  
日)

山下博美(2012)「環境コミュニケー  
ションのアプローチと課題」, 『映像と環境  
広告』シンポジウム、名古屋大学野依学  
術交流記念館(2012年2月10日)

山下博美(2011)「干潟再生に関するリ  
スクとベネフィットの環境コミュニケー  
ション」, 2011年度日本湿地学会大会、  
佐賀県武雄会館(2011年9月3日)

Yamashita, H. (2011) 'Social  
Perceptions and Environmental  
Communication on the Benefits and  
Risks of Tidal Flat Restorations Case

studies from Japan', Society of Ecological Restoration Conference, Merida, Mexico (19 August 2011)

Yamashita, H. (2011) 'Social Perceptions on the "Benefits" and "Risks" of Wetland Restorations: Case studies of tidal flat restoration projects in Japan', Society of Wetland Scientists Conference, Prague, Czech Republic (5 July 2011)

〔図書〕(計5件)

Yamashita, H. (2014) Planning Invisible Landscapes: Making Invisible Tidal Flat Landscapes Visible for Future Sustainability, in Shimizu, H. Murayama, A. (eds) Basic and Clinical Environmental Approaches in Landscape Planning. Urban and Landscape Perspectives, Volume 17. London: Springer. p.161 (p.113-131).

Kato, H., Shimizu, H., Kawamura, N., Hirano, Y., Tashiro, T., Yamashita, H., Tomita, K., Tomiyoshi, M. and Hagihara, K. (2014) A Prospect Toward Establishment of Basic and Clinical Environmental Studies by ORT (On-Site Research Training), in Shimizu, H. Murayama, A. (eds) Basic and Clinical Environmental Approaches in Landscape Planning. Urban and Landscape Perspectives, Volume 17. London: Springer. p.161(p.133-143).

山下博美、王智弘、白井正樹 (印刷中) インターディシプリナリからトランスデ

ィシプリナリへ - 新たな大学創造の論点と可能性 -、『臨床環境学 - 地球学から臨床・基礎環境学への展開 -』名古屋：名古屋大学出版

平野恭弘,河村則行,田代喬,富吉満之,萩原和,永井裕人,加藤博和,清水裕之,山下博美,富田啓介,高野雅夫 (印刷中) 4.4 臨床環境学の実践に必要な人材育成 - 櫛田川流域における研修から -、『臨床環境学 - 地球学から臨床・基礎環境学への展開 -』名古屋：名古屋大学出版

Erwin, K., Finlayson, M., Alexander, S., McInnes, R. and Yamashita, H. (2012) Task.9.2: Review of Ramsar wetland restoration guidance, Summary report on activities 2009 – 2012. Ramsar Convention Scientific and Technical Review Panel Thematic Work Area 8: Wetland Management - Restoration, Mitigation and Compensation. Gland: Ramsar Convention of Wetlands. p.20.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

山下 博美 (YAMASHITA, Hiromi)  
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授  
研究者番号：90588881